

第2次那須塩原市総合計画 第1回 審議会

開催年月日：平成27年8月6日(木)

開催時間：13時30分～16時15分

開催場所：那須塩原市役所西那須野庁舎301～303会議室

委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	網代用子	○	16	佐藤由紀子	○
2	安宅勝		17	高久結理	○
3	伊澤昭夫	○	18	高松英樹	○
4	石下かをり	○	19	西田由記子	○
5	薄井海雄	○	20	平山博	○
6	榎本建司	○	21	樋山則男	○
7	大島三千三	○	22	フランシスコ ロサリオ	○
8	大野昌弘	○	23	松浦譲	○
9	菊池太輔	○	24	村山茂	○
10	君島章男	○	25	室井一男	○
11	君島正三	○	26	室越礼一	○
12	君島則夫	○	27	目黒ケイ子	○
13	君島理恵	○	28	柳場美枝子	○
14	越石直子		29	山島哲夫	○
15	佐藤幹雄	○	30	渡邊亮	○

1 開会

2 市長あいさつ

3 委嘱状交付

市長より審議会委員に委嘱状を交付。

4 自己紹介

審議会委員及び事務局それぞれ自己紹介。

5 会長、副会長の選出

【司会】

会長、副会長の選出ということで、審議会に会長並びに会長を補佐する副会長を置く規程となっております。この選出につきましては、暫時市長に座長をつとめていただきます。

【市長】

暫時の間、座長を務めさせていただきます。

【資料2】の4ページをご覧ください。那須塩原市総合計画審議会条例がございますが、その第5条に会長、副会長に関する規定があり、「会長及び副会長は、委員の互選により定める」ということになっております。いかが選出したら良いか、皆さまにお諮りをいたします。

【委員】

事務局で何か案がおありですか？

【市長】

事務局で案があればという発言がございましたが、よろしいでしょうか。

それでは事務局で説明をお願いします。

【事務局】

それでは、事務局より案をお示しいたします。

皆さま方のお手元の名簿をご覧ください。事務局の案といたしましては、会長に29番、宇都宮共和大学の山島先生、並びに副会長は、21番の那須塩原市商工会の平山様にと考えております。

なお、山島先生につきましては、前回第1次総合計画審議会において会長を務められ、本市のまちづくりに精通されております。また、平山様におかれましても、現在、商工会の会長職ということでその分野で精通されている方でございます。

事務局案は以上でございます。

【市長】

ただいま説明がありました。会長には、宇都宮共和大学の山島哲夫先生、副会長には那須塩原

市商工会の平山博様をお願いしたいという原案でありましたが、改めてお諮りいたしますが、この提案のとおり決することでご異議ありませんか。

【委員】

異議なし。

【市長】

異議なし全員と認めまして、会長に山島先生、副会長に平山商工会長さん、どうぞよろしくお願ひします。

【司会】

では会長、副会長につきましては、所定の席にご移動ください。

それでは、大変急なところではございますが、会長の山島先生、副会長の平山様にそれぞれ就任のごあいさつを一言ずつ頂戴できればと思います。よろしくお願ひします。

【会長】

会長にご指名いただきました山島でございます。よろしくお願ひします。

先ほど市長から前回の計画についてお話がありましたが、前回の計画というのは、那須塩原市が合併してすぐの第1次ということで、「人と自然がふれあうやすらぎのまち 那須塩原」という全体の構想は合併協議会で形がほぼ決まっております、それを受けてというものでした。前回の総合計画の時は、まだ合併してすぐでしたので、黒磯と西那須野と塩原とそれぞれの代表の方が来られました。それぞれの立場をかなり重視しながら議論が進められていました。

10年経って、これから作る計画は那須塩原市として、初めてひとつのまちとしての計画が作れる、そういう段階になったのだと思います。

時代も大きく変わって、この10年間本当にいろいろなことがありましたが、市長がおっしゃったように、これから何が起こるか分かりませんが、基本となる考え方を皆さん方で、こういう方向に進むんだというのを、那須塩原市一体となって決めていきたい。そういう形で総合計画について皆さんと議論していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【副会長】

副会長ということでご指名をいただきました平山でございます。

商工会という大きな組織をもっており、地域の活性化に取り組んでおります。今年はプレミアム商品券を市の協力のもと発行しました。6億円を発行したのち、7月31日現在で1億円がすでに使われております。まちにおいても、活性化ができる、夢と希望のあるまちづくりを目指していきたいと思っております。今後ともよろしくお願ひします。

6 諮問

市長から会長に諮問書が手渡される。

(市長、公務により退席)

7 議事

【司会】

【資料4】をご覧ください。傍聴に関する規定がございますが、本会議は原則的に公開にすることとなっております。会議の出席状況と議事録につきましては市のホームページに掲載いたしますが、議事録につきましては、審議会の透明性、公平性を確保するため、委員名については、特定をせずに作成して掲載いたしますので、予めご了承ください。

それでは、この後の議事につきましては山島会長にお願いいたします。

【会長】

それでは、審議を始めたいと思います。

お手元の資料で議事が1から4ということになっていますので、まず事務局からご説明を頂いて、それについて質問があればしていきたいと思います。それでは、事務局よろしくお願ひします。

(1)第2次那須塩原市総合計画の策定方針について

(資料5について事務局説明)

【会長】

策定方針としては、先ほど市長から諮問がございましたが、まちづくりの方向性を定め、長期的かつ総合的な指針となる基本構想と、5年間の基本計画というのを審議会でいろいろ議論していく。その体制は、お手元の資料の体制図のような位置付けがありまして、ご説明ありましたとおり庁内でいろいろな議論をして、この場で全体的な意見をいただき、それを踏まえて庁内でまたまとめていって意見をいただく。それからさらにパブリックコメント、説明会、アンケートなどいろんな形で進めていく、こういうご説明でしたが、今の内容につきまして、ご質問等があればお願いしたいと思います。

策定方針については、また具体的に策定しながら、振り返って議論できるかもしれませんので。この形でよろしいですね。

【委員】

異議なし。

【会長】

それでは(2)の策定スケジュールについて、事務局からお願いします。

(2)策定スケジュールについて

(資料6について事務局説明)

【会長】

今のスケジュールにつきまして、ご質問意見等ございますか。

【委員】

異議なし。

【会長】

では次の(3)人口ビジョンについて、事務局から説明をお願いします。

(3)市の人口ビジョンについて

(資料7について事務局説明)

【会長】

人口ビジョンは国勢調査でまた見直すのでしょうか、事務局では、緑の線で示してあるようにこういう前提で考えるのか、総合計画の中ではどう考えていくのですか？要するに赤い線と緑の線だいぶ違いますから、緑の線はこうありたいというもので、どちらで考えるのか。時間的には、これから10年間ですから、そんなに乖離はないですが、計画を皆さんで考える前提として、どう考えていますか。

【事務局】

那須塩原市でも人口減少問題については、取り組みを強くやっている所ですので、減っていく推計というよりは目標を高くもっていくことで考えていきたいと思っています。確かに計画期間が10年先ということで、そんなに数字的な違いというものはないとは思いますが、考え方としてはそういったことを目指していきたいと思っています。

【会長】

要は、ここに書いた緑の線になるかどうかは別として、こういう線になるためには総合計画ではどういう取り組みをしていくかということをご自分で考えていくということですね。

では、これについて、豊富な内容をご説明いただきましたが、議論をしていきたいと思っています。

【委員】

本当に人口減少は、那須塩原市以外でも大きなテーマかと思います。産業自体も成り立たなくなる、そういった中で今後考えていく上で、12ページ、13ページの各市町との転出入の関係、ここには10市町が書いてあるわけですが、この因果関係がもし分かれば教えていただきたい。例えば、会社の転勤異動があって住所を変更せざるを得なくなると、代わりの方が来る相互関係が動いているわけですね。今後考える場合でも、これは想定しなくてはならないのかなど。他県においてもそういったことが主な要因であれば、今後においても人口移動はある程度想定される。ということであれば、そういったことを踏まえて計画を組んでいかなければならない。もしその因果関係がわかるとすれば、教えていただきたい。

【事務局】

例えば、14ページ15ページを見ていただきますと、県外への転入転出の中で福岡県への転入転

出が多いというのがあります。これは市内に大きな工場があるから、こういう動きがでてきているというのがおそらくお分かりかと思います。大企業というのは、人の動きが出る大きい要因になっていると思います。ただ、これも転入46人と転出48人なので、行った人が戻ってきてとほぼ均衡しています。

例えば企業誘致で大きい企業を引っ張ってくるというのも、人口増についてはいいことなのかもしれませんが、大きいところに頼っていただけでは、そこが仮になくなってしまった時に、関係する人も全部なくなってしまうということもありますので、地元の企業ですとか、地元の産業というのを大事にしながら、こういったところは考えていかななくてはいけないかと思っております。

細かい動きの分析まではしていないので、これくらいでしかお答えできなくて、申し訳ありません。

【会長】

いろいろな要因があると思います。職場の関係でご意見どうですか。

【委員】

関連性、具体的なものはないですが、昨天下野新聞の記事の中にUJIターンの調査の報告が載っていました。資料の42ページに、将来の展望というところで、Uターン等については、愛着度80%以上を目指すというような記載があります。裏付けとしては、20代の方の転入の超過の割合がかなり多い、また那須塩原市に愛着のある方が多いということなのですけれども、昨日の新聞の報告ですと、戻る割合が低いような、低くなる傾向にあるというような記事が載っていました。

移住、移転のきっかけとなるのは、就職、転職が大きく関係するところなので、こちらの企業を首都圏の大学にPRする、企業情報などを配布したり、また首都圏で卒業生を対象とした合同面接会をやることなども可能だったりしますので、そういった対応策を進めるといいのかなと思います。

あと、先ほどお話しがあったとおり、大手の企業に雇用されて転勤異動で近隣市町にこられて、住宅は那須塩原市内に構える方もいるかと思っておりますので、数的なものは調べていないので分からないですけれども、そういったこともあるかと。あと県外についても、進学の際と就職の際の要因が結構大きいウエイトを占めているのではないかと思います。

【会長】

若い人の進学の時期になると減って、それが就職の時期になると増える。これは素晴らしいことだと思いますね。どういうところでどう働いているのかということを考えて分析していく。戻ってくる人を大事に考えるのは大切だと思います。

人口について、もう少し議論があればしていただきたいのですが、今日は第1回目なので、全員一言ずつ、総合計画に何をどう期待しているか、こういうことを考えるべきだということをお話しいただきたいと思います。最後に副会長がまとめますので、お一人ずつお願いします。

【委員】

人口ビジョンについて、非常に興味深く見させていただきました。実は私の職場が東京都の台東区にあり、住んでいるところが那須塩原市で、毎日新幹線で通勤をしているのですけれども、そういった観点からも各都道府県、栃木県内の市町の転入転出のデータは非常に面白く見させていただきました。

ちょっとお教えいただきたいところがあるのですが、人口ビジョンの2ページ、那須塩原市の人口推移と将来推計ということで社人研が公表しているデータで、那須塩原市は平成52年までに減少すると見込まれていますが、例えば他の都道府県、他の自治体でこれが増加している、増加する傾向にあると見込まれている自治体はあるのか知りたいと思いました。那須塩原市と似たような境遇にあるような自治体が、仮に増加する傾向にあるとすれば、そういったところのデータも比較で見られるといいと思いました。

【会長】

残念ながらほとんど全部減少です。栃木県全体も2040年に160万人台になると言われています。那須塩原はその中では減り方が少ない、宇都宮もそれほど減りませんが、あと小山と那須塩原、3市は減り方が非常に少ない。単純に言えば、全国すべて特殊なところ以外、那須塩原の人口を増加させるのに、参考になるような同じような都市はないということになります。

【委員】

人口に関しては、やはり若い方が戻ってくるような企業に働きかけるというのが一番だと思っております。なぜなら、若い方が戻ってくれば、少子化に歯止めがかけられるのではないかなと思っておりますので、企業に働きかけるということは大々的にやってほしいと思います。

今年度、国勢調査がありますので、それでも大幅に狂ってくるのではないかと思います。私も統計調査をやっておりますので、深く人口減少については考えております。統計調査が終わった時点で、どういう数字が出てくるかということと、企業に関しての働きかけというのはぜひやっていただきたいと思っております。あと1点、策定スケジュールの中で、次回の日程を決めていただければ、とてもありがたいです

【委員】

私は宇都宮から嫁いできて、45、6年くらいになるんですけども、無我夢中で来てしまって、これまであまり考えずにきてしまったというのが実感ですが、今年の初めくらいから人口が減っていくと、確かに少子高齢ということで高齢者が増え、生まれる人数も減っていると考えたら、本当にしっかり議論して行って、那須塩原市が先細りにならないような計画をやっていかなければならないと痛切に感じておりますので、一生懸命やっていきたいと思っております。

【委員】

まちづくりに関係するNPOをやっている以上、本当にいいまちづくりってどうやったらよいかを考えるんですけども、人口が減るのは目に見えてわかるとおり、これを増やさなければいけないとか、維持していかなくてはいけないというのも重々わかるんですけども、それと同時に減っていったときの成熟していった社会で、どう「幸せ」というのか「充実」というのか、そういうものも同時に求めていくのも重要なのではないかと考えています。

例えば、建物ができて活性化したら、活性化しているように見えるけれども、建物はいずれ古くなるし、それが本当のまちづくりつながるのかとちょっと疑問を感じているので、人が重要になってくるのではないかなと感じています。

【会長】

人口は全部減ってかわけですね。だから、人口減少してしまうと全部だめだということではなくて、どんなまちにしていくなか、まちのかたちもそうですし、そこでどういう活動をするか、まさに総合計画の中身です。人口を減少しないようにというのは多分不可能で、そういう中でどう作っていくかというのが議題になってきます。

【委員】

かねてから考えていたんですが、合計特殊出生率をあげるということは極めて医学的というか生物学的ということで、学歴社会の中では、就職するときにもう22歳以上になっているわけですから、これは別な話だと思います。

那須塩原市の生産年齢人口を増やす問題に限って言うと、今までは製造業で地方の雇用が確保されてきた。高校卒業者がたくさん就職できましたから子どもが増えたんですよ。今はそういう時代じゃないので、しかも製造業は中国、東南アジア、ベトナム、そういった方に移管されている。であれば、このあたりでやるとすれば、今IT社会ですから、首都圏にある本社機能を誘致する。あるいは那須御用邸があるとおり、ロイヤルリゾートではないですが、以前、市長さんが立候補されたときにキャンプ那須構想と首都機能移転というお話がありましたけれども、大使館などを誘致するということで職場も確保されるし、いわゆるロイヤルリゾートとしての雰囲気づくりといったものも高められるし、このあたりは観光産業が多い地域ですので、そういうものにもリンクするというので、そのあたりをターゲットに生産年齢人口を増やすということを一つの手段として提案したいと考えております。

【会長】

今の話は那須塩原をどういう都市にしていくなかということですね。観光にするか何にするか、那須塩原はどんな活動で那須塩原らしくしていくなかということで、まさに基本構想の考え方につながってくるんじゃないかと思います。

【委員】

私は25年前に黒磯に居まして、久しぶりにここに帰ってまいりました。その時と比べると、1つの例で言うと、当時板室温泉を担当しておりましたが、平成3年の時には宿泊客数が33万7千人いたのが、平成25年だと9万5千人まで減っています。ということは、先ほどの人口の流出入もそうですけれども、魅力あるまちをつくるというのは本当に大切だと思います。

温泉、酪農、いろんなもの、面白いものがあると思います。その中で細分化して、例えば相続税評価の路線価でいうと、黒磯駅前の正面路線価が一番高いところが3万9千円なんですね。那須塩原が5万3千円、下落率で言うと黒磯が年間で7.1%のマイナス、那須塩原が3.6%のマイナス。ということは、那須塩原の方に興味を感じている方の方がずいぶん多いと。そういったことを考えると、那須塩原駅前をいかにもっと住宅地を増やすかとか、もっと違った意味で観光の部門だと、黒磯をいかに活用するか、そういった点が検討できればいいのかなと思います。

それと一つお願いですが、次回以降、資料を事前に郵送等で送っていただけると、読みこなしておきたいなと思っております。

【委員】

子どもたちが鍵になってくるのではないかと考えています。ただ子どもたちにお金をかければいいという訳ではありませんが、これから小中の一貫教育が進んでいきますが、小中一貫については少し違うと思っている部分があります。よいと思っている教育を受けさせることが大事ではないかと思えます。ALTもそうですが、システムをどうしていくかというよりは、目的として強み、レベルアップという考え方で政策を実施していただくと、効果的になっていくのではないかと考えます。教育熱心な親たちにとっては、教育に強みを持っている地域に魅力を感じると思います。

私は、西那須野町を選んで住みました。昔は小川町、大田原市にも住んでいたことがあって、西那須野で仕事を経験した時に市役所でお世話になったりして、サービス精神が良くて、不便を感じて生活していた身でしたので、魅力を感じて、住むんだったら西那須野に住みたいなということを実現して、20年近く住んでいます。

【会長】

今の話は、教育環境が非常に重要だという話と、都市に魅力があるということで委員も住みたくなったというお話だと思います。

【委員】

ハローワークの方で統計資料として出しています有効求人倍率というものがございまして。県の発表ではここ数か月、1倍を超えているということで、厳しさは見られるけれども雇用の改善は進んでいるという判断をさせていただいています。そういう中で黒磯のハローワークでは、前々から介護や建設関係の人手不足が叫ばれていますが、今回人口の推移等を見ていくと、数年後には生産年齢人口が減ってきて、高齢人口が増えていく。より人手不足感が加速することも考えられるのかと考えているところでございまして。お話のありました企業誘致はもとより、安定した雇用の確保、こういったもので各企業が元気になってくると、また人が寄ってくるのかなと思います。

【委員】

子育て中の家族と日々一緒にいると、ここには少子化はないよねというくらい9月生まれのお腹の大きいお母さんがいます。

子どもが2歳3歳くらいになると、職場に復帰していく心づもりで私たちのいる所に来ています。子育てをしながら、子育てを通して女性がどう自己実現をしていくかということを仕事の中で考えていかなくてはと考えています。私は子育てということだけではなくて、その中で女性がどんな風に世界を作っていくのかを考えていきたいと思っています。

ちょっと仕事を離れてしまうんですが、実は夫が新幹線通勤をしております、毎日通っていたんですけれども、このところ週に1日くらいは在宅勤務が認められるようになりまして、大分体が楽になったと言っています。ちょっと前でしたら、移住者を確保するためには、大きな工場なりを持ってこない、という状況だったかと思いますが、今この社会の中では在宅勤務なども企業によってはだんだん認められるようになってくるようになり、必ずしも大きな工場を引っ張ってくる必要がなくなっているのかなと思います。育休明けに、東京に新幹線通勤で復帰するというお母さんが何名かいたんですが、それを見ている在宅勤務が認められれば、もうちょっと楽に仕事復帰ができるのかなと思

っています。もちろんサービスを増やすとか大型の企業をもってくるとかいろいろあるかとは思いますが、そんな所も考えていくとまた変わってくるのかなと思います。

【委員】

私は子どもが3人いるんですけれども、そのうち上2人が東京に進学しておりまして、もう間もなく戻ってくる時期になるんですけれども、戻ってくるきっかけですね。まずは勤め先があることが第一条件ではあるかとは思いますが、それ以外の部分で、地元の魅力とか住んでいくうえで期待する部分とか、若いなりに都会を見てきて感じている部分があるかと思うので、そのあたりを何かデータを取って利用できればいいのではないかと感じました。

【委員】

10ページ、11ページに載っているような年齢階級別人口移動を見ても、私と同じような年代の人が那須塩原市から出ていったり、逆に那須塩原市に戻ってきたりしているんですけれども、その中で市についての魅力を考えてみると、那須塩原市から出て行ってふと地元を思い出した時に、何を思い出すかなと思ったら、家族のこととか地元の雰囲気とか近所の人とか、そういう人とのつながりを思い出すことが多いかなと思うので、人とのつながりを大切に作る取り組みとか、戻ってきたいと思った時にここで就職できる雇用の充実をしていければいいのかなと思いました。

【会長】

委員は高校の同級生、東京に行っている人もいるでしょう。そういう人たちがまた戻ってくるかどうかですね。若い人がどういう魅力があったら戻ってくるかということをしっかり考えていきましょう。

【委員】

私は40年以上前に夫の勤め先の関係で越してきて、それからこちらで過ごしていますが、とても過ごしやすく子育てしやすい地域だなという風感じて、私自身は愛着を感じているんですが、子どもは出て行ってしまっただけで戻ってくる気配はないということで、プラスマイナスゼロになっています。

先日、40年後の社会保障というテーマの講演を東京で聞いたときに、特殊出生率はやや持ち直している傾向にある、それでも1.4が1.42、1.43になったとかその程度の話ですが、少し持ち直しているということでしたが、結局人口が減っていくことは否めないということで、ただ劇的に回復させるには、非婚の出生をもっとみんなで支えとか認めるという社会づくりが必要とその先生はおっしゃっていました。結婚という形式をとらないと子どもをつくってはいけないという風潮が日本にはあって、それがなかなか配慮されないで、どうしても人口が増えていかない。ヨーロッパや欧米では、非婚でも子どもを産んでもきちんと育てられて生活できるということが保障されているという風におっしゃっていて、そういった雰囲気をつくることも必要かと。

今シングルファーザー、シングルマザーはすごく苦しんでいるんですね。経済的にも苦しんでいますし、周囲の目からの圧力も苦しんでいるということがあるので、そういういじめに似た環境というのは、子どもにとってもよくないし、子育て世代にとってもしんどいことだと思うので、全体的にそのようなことがない、どんな境遇でも幸せがつかめるような社会環境とか人間の意識というものを作っていく必要があるのかなと思います。そういう改善を構想の中で、テーマの中で掲げてやっていけないのではない

かと思っています。

【会長】

婚外子は日本では少ないですね。婚外子が多い国もあるわけですから、先進国の出生率が少ないかというフランスあたりは高いですね。スウェーデンも高い。婚外子を認めているということが違う。

ただ日本も離婚が増えてきていますので、今おっしゃられたように片親という家庭がものすごく増えている。子どもを社会で育てるといった雰囲気であればいいのですが、そこまで意識改善が全体でできるだろうか。結構むずかしいだろうと思います。

【委員】

まち・ひと・しごとという中で人口減少が一番クローズアップされている時代ですが、私たち商工会の立場で言いますと、大企業の誘致についても皆さんで議論されていますが、その中で大きな企業が地元の企業との交流を密にして、ある意味技術の伝達とか、いろいろ商品開発に携わるような企業の育成がこれから大事なのかなと思います。その中に育つような人たちが、創業という中で地域の活性化に結びついて、まちの魅力、住んでみたいまちという形の外部に対して発信できるような地域ができればなと思っています。

その中で私たちの年代は、25歳くらいの時に結婚したんですが、あの当時は女性でも22歳くらいで結婚するというのが当たり前のような感じの時代で、25歳になったら焦った時代もあったのかなと思います。まして、男性が30歳になると、結婚できるのか思いながら生活していましたが、現在は結婚年齢があがりまして、全国平均で言うと、女性は28.何歳、男性は30.何歳という晩婚化の傾向がありますので、子どもが1人、2人でできればいいのかなという状況になっています。地域においても人口増につきましては、結婚する人たちが多くないと人口は増えませんので、私たち商工会の青年部のメンバーも婚活活動ということで去年あたりから行動を起こしまして、なるべく人口増に寄与するように商工会挙げて努力をしておりますので、皆さんの中でも機会がありましたらご紹介いただければと思います。

【委員】

那須塩原市の魅力は、適度に都会に近くて、自然が豊かに残っているところ、適度に産業もあるというすごくバランスのいいまちであることではないかなと思います。ただ、これから自然環境の保全ということはずごく大切なことで、5年前の総合計画審議会の時に全く問題にもならなかったメガソーラーの林立を危惧しています。これは那須塩原市だけでなく、那須地域全体で、自然があったところがどんどん人工的な無機的なパネルに変わってしまっているスピードにびっくりしていて、どこかで歯止めをかけないと将来に大変なものを残してしまうのではないかなと思っています。

自然が豊かなところということで、那須塩原市の農業というのはとても大切な産業であると思っています。若手の後継者がいないというのが大きな問題となっていて、企業誘致の話もありましたが、農業の担い手が喜んで戻ってきて農家を営む、もしくは新しく就農する方、都会からきて就農する方が心配なく仕事ができる環境づくりというのもとても大切だなと思いました。

あとは自治体における婚活ですが、もう待ったなしかなと思っています。正直自分たちが子どものころ、親がシングルという方はほとんどいなかった。それが普通にいらっしやる時代です。商品券の支

給などもあったんですが、3人からということで、1人2人の親の方から不満の声も聞こえてくるんですね。シングルの方は3人以上のお子さんを持ってないと思うんです。シングルファーザー、シングルマザーの方のサポートというのもこれから重要になってくるのではないかなと思います。

【委員】

私は観光が専門なので、観光の面から考えますと、バブルの絶頂期の頃はお客さんも多かったんですけど、働いている方も多かったんですね。塩原も15年くらい前が一番多かったと思いますが、それからどんどんお客さんが減ってくるとともに働く人が少なくなり、人口が減ってきたと思っています。

それと温泉場という環境はいいんですが、辺鄙なところにあるものですから、そこで子育てするというのがものすごく大変なんですね。例えば、西那須野、大田原の高校へ行くにしても、アパートが一軒借りられるくらいの定期代がかかる。那須塩原に住んでくれればいいですけど、矢板や大田原というところへも移住してしまうために、どんどん人口が減ってきてしまう。そして、まちの中もお客さんが少なくなってしまうと空き店舗が多くなってしまいます。空き店舗というのは観光にとっては最悪なんですよ。空き店舗対策というものも市として考えていただきたいと思います。

それから皆さんが先ほどからおっしゃているように、若い人が結婚しないと子どもができない。シングルの人も確かに増えていますが、シングルの人は収入面で大変な苦勞をしながら子育てをしている。子育てに関する支援策というものも、18歳くらいまでは支援するというのも大事になってくると思います。

【委員】

こういう会議に初めて出させていただいて、消防団としてどういった活動をすればいいかわからない部分もあるんですが、今までの皆さんの話を聞いていて、会社の誘致とか魅力のある那須塩原市をめざし、若い人のUターンに期待したい。消防団員は、那須塩原市の人口の推移と一緒にかなり減少しています。そういう中で若い人が帰ってくれば、少しは期待できるのかなと。そういう意味でもこの会に協力していかなくてはならないと思いますので、今後ともよろしくお願いします。

【委員】

私は塩原生まれで58年経ちました。大学の職員をやっていたんですが、どうしても塩原に帰りたくて帰ってきました。現在、地元の小中学校で9校くらい、子どもたちと一緒に勉強していて、特に塩原で、自然の良さを知ってもらうため、自然の教育というものを担当させてもらっています。子どもたちへの教育を徹底していかないと、ますます塩原は人がいなくなってしまう。そんなこともこれから考えていけたらと思います。

【委員】

自分は高校は黒磯だったんですが、大学は青森で就職は埼玉でした。県外から見た時に栃木県とか那須地域の魅力というのを再認識できるというか、いいところなんだと実感できる。まして那須塩原市は酪農が盛んで、日本でも有数のいいところだということを認識した時に、そこで自分も農業をやりたいと思って帰ってきました。

農業の現場に入って、若い方たちの未婚率というか、結婚する気はあるんですが、仕事に一生懸

命すぎて結婚はまだまだ先という方が結構多い。そこが人口減少にもつながってくるんだなと思います。

今、戻ってきて4年目なんですけど、那須塩原に生活していて、ちょっと遊びに行くとかご飯に行くという時に、チェーン店、ラーメン屋さんしかない。ちょっとおしゃれなご飯を食べたい時にどうすればいいか。商工会の方とかいっぱいいらっしゃるんで、もっとこういうところもあるんだよとかあると思いますが、そういうのを見つけるのも、農業をやっていると休みもないので時間がない。隠れた魅力ってもっともあって思うんです。父親たちから言わせると、昔は喫茶店みたいなところで、マスターと向き合って話したりする時間が大切だったとか、そういうところで出会いがあったとか、そういうのが本当は田舎の魅力だったり、黒磯駅前だったり、西那須野駅前の魅力なんだろうなと思うんですけど、なかなか若い人たちはそういう所に入っていけない。チェーン店とか簡単に入りやすいところですからまかせてしまうので、出会いもなければ結婚もできない。

農業の晩婚化、酪農が盛んな那須塩原なので、酪農家の結婚が遅いんですね。20代後半から30代入ってからなので。本当は酪農家さんって、専門学校が終わって20歳から21歳くらいで実家就職をして、普通は24～5歳で結婚し始めるのが、24～5歳で一生懸命仕事していて、飲みにも行かない、遊びにも行かない、彼女もいないという方が多い。それでは多分結婚できないだろうなと思っているので、農コンなどもいいのですが、自然な出会いがあったほうがいいと思うので、若い人が集まれるような場所があってもいいのかなと思います。

【委員】

私は設計が仕事です。合併前から都市計画区域は変わっていないんですね。合併前からこういう方針があったと思いますが、それに基づいたまちづくりができたのか、それをまず検証していただきたいというのがあります。例えば西那須野区域ですね。駅の東側は大田原が生活圏です。ただ、都市計画図を見ると、色付けされているところは駅の西側で、間は農振地域なんですね。現状と全然合っていないと感じました。

あと、観光地としてですが、本当に申し訳ないですが、何度も散策したりしてるんですけども、観光客の目になって見たときに、もう一度来たいと思わないんですね。本当に観光のまちだというのであれば、行政の力を借りて、補助などで思い切りやる必要もあるんじゃないのかなと考えたりしています。

黒磯の方だと街並みが古いですから、今再開発ということでやっていますけれど、そういった方向で力を入れていく。那須塩原駅周りは本当に新しいところなので、これからのまちづくりをどういう方向性で行くのか、市として決めて進んでいくということが大事になると思います。森林の開発とか太陽光とか話が出ていましたけど、乱開発につながるということなので、その辺もしっかりした方向性ができればいいのかなと。そうすると、魅力あるまちという裏付けができるのかなと思います。

【委員】

皆さんの意見を聞いて、同じような話になりますけれども、前回の総合計画で4分野に市内の土地利用の色分けをしています。我々市民から見ると、土地利用計画を推進しますと書いてありますが、うまく推進しているのかなと。先ほど話があったように、山は太陽光乱立で、自然風景がせっかくよかったのがそれでいいのか。荒れた平地林がそのままということもあるし、総合計画の中で提唱してい

る利用区域をもう少し市がわかりやすく、そして、リーダーシップをもって推進するのが必要かなと思います。

例えば、黒磯の駅前が再開発されますけども、実際に駅前の住宅に住んでいる方々は、次の世代は別なところに住宅を建てて住んでいる。当然、核家族化もありますけれども。例えば固定資産税が高いとか、都市計画区域内とかいろいろ税金面であると思いますが、そこに次の世代をまちの中に戻したいなら、何か特典、特区じゃないけど、やらなくてはだめかなと思います。

農業者の経営が大変だということで、今企業が工場的な農業ハウスというか農業工場をあちこちで作っています。そういうものを土地利用のエリアの中で、行政がリーダーシップで誘致するというのも、農業生産的に一次産業を安定させる、維持継続するということになります。今までは製造業であったけども視点を変えることも必要かと。

在宅勤務の話などもありましたが、那須塩原市で住むということの魅力をどう出していくかということかなと思います。

【会長】

土地利用の問題というのは、行政としてやれる範囲とやれないこともたくさんありまして、確かに委員がおっしゃるようなこともあるんですが、できないことも結構たくさんあるんですね。制度上もできない。例えば、産廃の処理場を作らせないように市がいくらやろうとしても、それはできない。

こういうのが魅力的だと総合計画で方針は出したとしても、それにくっつけて具体的にどういう風にやるかというのがなかなか出ないところもあると、市の方もなかなか書きづらいところもあるんですね。例えば、那須塩原ですと非線引きですから、今県全体の都市計画区域のマスタープランも見直しをして9月に決めて、来年の3月までに決めるんですけども、宇都宮や南の方は線引きされていて、こちらは非線引きでなかなかできないということも結構たくさんあるんですね。そこは制度上の問題がありますが、ただどういうまちにしていきたいかということは大いに議論していったらいいと思います。

【委員】

本日の審議会、冒頭市長から総合計画の諮問を受けました。資料の5の中に、その他の計画の関連性ということで、今回の審議会には、「産・官・学・金・労・言」のメンバーが入っており、この30名がそれぞれの立場やそれぞれの那須塩原市の将来を考えたご高説を賜りまして、私も後期高齢者になりましたが、いくらかでも刺激になって大変ありがとうございました。

今回、那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略に関する検証等もこの審議会に諮問することで、先ほど事務局から説明がありました人口ビジョンがあったわけですね。この人口ビジョンを基にそれぞれの立場で、私の立場ではスポーツ振興基本計画、これは那須塩原市の総合計画の下に位置づけられるものかと思いますが、「どこでもだれでもいつまでも」スポーツに親しめる計画を改めて立てるということで、人口ビジョンを参考にして、人間本来と申しますか、体を動かし、考え学び、そして多くの方々と話し合える。健康増進、人生の楽しみを作り出していくというのが一口で言えばスポーツであり、体を動かす基本かなと私は思っております。

貴重な人口ビジョンの説明をいただきまして、県内でも全国的に見ても緩やかな減少という中で、いかに活気のあるまちづくりをしていくかということが、今日の諮問の趣旨であるかなと思っています。そういう中で皆さまから、新規就農の話、土地利用の話聞き、本当に参考になります。特に住みよ

いところは別な土地の規制がかかっています。具体的に言えば、別の委員が言っておりました西那須野駅の東の方ですね。大田原に接地していて住みやすい、開発したい。けれども、農振地域になっている。そういう土地の制限も間違いなくありますね。土地の利用は、財産権の保護にも絡んでくるので、なかなか土地利用計画をつくる、行政で手掛けるというのは、難しい点もあると経験しております。そういう中で皆さまのご高説をいただきまして、関わりのある市のスポーツ振興計画、農業振興に関わる分野につきましては、ただいま説明をいただきました定住促進計画の人口ビジョンを基に今後進めたいと思います。

【委員】

皆さんの意見を聞いて大変勉強になりまして、参考にさせていただいております。

人口に関しては、確かに重要なことでして、那須塩原市の人口減少が緩やかなのは、住みよい環境にあるからだと思います。ただ、人を集めればいいというわけではなくて、どんなまちをつかって、どんな人に住んでもらうか、そういった面から考えてもいいかなと思うわけですが。例えば、少子化に伴い高齢化も進んでいるわけですね。住んでいただいた後、建物だけが残るまちになっては困ると思います。若い人が一緒に住めるようなまちづくりを皆さんで考えていただけたらと思います。

私は勤めてはいますが、農家です。東京にいたりもしましたが、長男であるからという理由だけで帰ってきました。先ほど農家の方の話を聞いて、自ら志す人もいて依然と比べ心強い状況に変わっているよう感じました。このまちは、単なる都市だけのまちではなく、農村地帯ですから、農村部の状況と新しい人との調和のとれたまちづくりが必要と思っています。若い人たちが帰ってくるまちですね。

【委員】

県北地域の情報誌を発行してまして、このまちは素晴らしいところがたくさんあります。観光地、那須町、塩原、板室と、とても素晴らしい温泉があったり、すてきな旅館があったり、自然があつて。

那須塩原市は通勤圏としても可能なので、地元向けの情報誌以外に、県外の人や地元でない人が、この地域全体を那須と称しているのので、那須別冊号という特別号を年に1回出しています。今回で2回目ですが、それを地元以外のお客様のところに、東京や埼玉や千葉、県南や県央、そういったところに那須別冊号を置いて、それを見た方が那須地域に魅力を感じて来てもらうようなことをさせていただきました。外国人誘致、インバウンドということも絡めて、今回の本は動画という新しい取り組みも入れて、スタッフの方に自分のところをPRしてもらって、それを英訳し英語で流すということしました。少しでも地元那須に地元以外の方に来てもらう、住んでもらうようなことを取り組みとしてさせていただいています。

【委員】

だいたい聞くところによると、ほとんど同じような考え方をもっていると思います。那須塩原地域は、観光地も持っていますし、空気もきれいだし、交通の利便もいいし、生活環境もそう悪くはないと思います。若干、雇用体制の方が、大きな事業所が少なくなったのかなど。雇用体制がもしよければ、若い方、20歳代の方が一旦はどこかに行きますが、その後Uターンしてくるという例もあるようですので、永住することは可能ですが、そのくらいの地域もあるし、面積もあるんですね。ですから、雇用体制が

よくなる方がいいのかなと思います。

環境づくりもいいし、雰囲気もいいし。先ほどどなたかが言っていましたが、シングルマザーなど、これは人の考え方で何とでもなると思いますから、周りから押さえつけても収まらないかもしれない。しかし、環境づくりがよくなれば、子どもはすくすくと育つと思います。

それからもうひとつ、結婚年齢が最近はやいようなことを言っていますが、我々の頃はあまり遅いといろいろ言われたものです。結婚というのは花盛りがあるんだと、こういうことを言っていますが、今は花盛りが終わったころ結婚しますから、子どもが生まれぬ人もできるんですね。結婚に対しての奨励金や、子どもが1人、2人、3人と増えてくれば、それに対する助成、援助をする。そういう手厚いことを考えることも若い人に力をつけるという意味になるのかと。そういう環境づくりをするためには、生活力を上げるということですから、雇用体制がいいということが必要かと思えます。

那須塩原市は気候的にもいいところです。

【委員】

私は移住者という立場で、いろいろ思うところがあるのですが、最後になりますので手短かに1点だけ。

人口という点で感じたことを申し上げますと、先に私の夫が単身赴任で大田原に勤務しておりました、後から私がついて来ました。かれこれ14年経つのですが、まず何が良かったのかと考えたときに、ほどよく田舎でほどよく都市部の機能を有している。インターチェンジに近い、那須塩原駅に近い、教育の充実、それから医療施設の充実、そういったインフラも整っているということを考えると、那須塩原市は自信をもっていいまちだと思っております。

住んでみて満足度が高ければ定着すると思うんですね。そのために必要なことというのをこれから考えていくんだろうと思いますが、私の中で身近なところで、県外からの移住、夫も妻も県外という方、ざっと20世帯近くあります。いずれも大きな企業です。いわゆるママ友のラインで考えるとそういった大企業といわれるところで勤務している世帯が定住しているということなんですね。それを考えると、満足度を高めるということが非常に重要なことになるのかなと、そのためにはまず足を運んでもらわなければならない。そこに力点を置いておくための施策が必要なのかなと感じました。

【会長】

非常にたくさんの意見がでましたが、ここで副会長、まとめをお願いします。

【副会長】

素晴らしいご意見等いろいろいただきまして、ありがとうございます。

私も地元の小中学校、高校を出まして、4年間大学に行ったつもりで大阪の方に行ってまいりました。大変この土地が懐かしくて懐かしくて、じっとしていられなくてこっちに帰ってきたわけですが、皆さん全体的におっしゃっているとおり、観光、温泉もあるし、酪農も素晴らしいし、おいしいお米もできるし、高速も新幹線もあるし、川もあって疏水もあって、皇族もこちらに来ていて。こんな環境のいいところはないですよということが皆さんの大きなご意見ではなかったかと思っております。

そして、安心して住めるところ、子育てができるところ、そういうところではないか。何でもできますよというわけではなくとも、やる気になればこういうこともできるというようなことで、皆さまからアイデアを

出していただき、今回のように色々な意見を出していただき、寂れていってしまったまちももう一回元に戻そうという、総合的なやる気のある皆さんに参加していただいたということで大変ありがたく思っております。

どうぞ皆さんの力添えによって、よりよくなるまちに、地域になりますよう今後ともご支援のほどをお願いしたいと思っています。ありがとうございました。

【会長】

素晴らしくまとめていただき、どうもありがとうございました。

今日は全員にお話ししていただくということで、色々意見を言いたくても、途中で終わらせた人もいますし、時間を気にして十分に言えなかった点もあるかもしれません。それはまた、次の回、その次の回ということでいろんな内容に応じて、活発な意見を出していただけたらと思います。

大分時間も過ぎましたが、これで本日の会議を終わらせてよろしいですか。今日は十分な意見を戦わせられなくて申し訳なかったですが、次回以降よろしくお願ひしたいと思っています。どうもありがとうございました。

8 閉会